



図書館には“ぜんざい”がよく似合う

伊万里市民図書館

糸乗 貞喜

(よかネットNO.27 1997.5)

- 2 地域と文化

とても過激な図書館である

「図書館から、本を使ったまちづくりの風を吹かせて欲しい」

「イベントで集めるだけではダメだ」

「住んでいる人々が知的活力をつけるところが図書館だ」

「住んでいる人の知的活力以上のまちは出来ない」

息をのむ思いがした。これは、私が2時間半ばかり話を聞いて案内してもらった犬塚さんから聞いた、森田前館長の言葉である。

伊万里図書館がすばらしいという話は聞いていたので、ついでがあったら見学してみたいと思っていた。森田前館長を存じ上げていたので、こんな過激なコンセプトで図書館づくりを進めた人だということも知らず、森田さんに紹介をお願いした。その結果、案内・説明をして下さったのが犬塚さんという女性であった。少し控え目な感じの大人しい方だが、出てくる言葉はけっこう過激であった。あとでいただいた「としょかん通信・平成5年10月号」の中から森田さんの言葉を引用しておく。

「まちづくりは、にぎやかなイベント（催し）だけでは出来ない。市民の知的活力がまちづくりの大きなカギだ。また情報化時代は地域の経済力や学習意欲によって“文化格差”を生む心配がある。それは経済格差よりも影響が大きいかも知れない。市民が知的活力を身につけ、同時に、市はよそにひけをとらない程度に文化施設を整える努力を傾ける必要がある。図書館は、そうした知的活力をたくわえるために欠かせない“生活施設”の一つである。しかも行政（市役所）だけの考えでつくるのではなく、市民が活発に意見や注文を出して、図書館を使う者の立場が計画に反映されなければならぬ。伊万里市は、“伊万里学”という学習運動の一環として図書館づくりを考えてい

建築概要

平成2年9月3日	庁議で伊万里中学校横の文化ゾーンに図書館建設を決定。
平成3年6月24日	新図書館基本計画を作成。
” 11月29日	第1回図書館建設懇話会を開催。以降平成5年4月まで5回開催。
平成4年4月23日	第1回図書館建設委員会を開催。以降平成5年4月まで7回開催。
平成5年1月19日	基本設計に着手。
” 6月26日	図書館づくり伊万里塾を開始。以降平成6年3月まで7回開催。
” 11月10日	実施設計完了。
平成6年2月26日	建設工事に着手。（起工式）
平成7年3月30日	同上工事完了。
” 4月5日	開館準備のため新館へ移転。
” 7月7日	伊万里市民図書館落成式、8日開館。

施設概要

名称	伊万里市民図書館
位置	伊万里市立花町4110番地1
敷地面積	7,692.14㎡
建築面積	4,053.96㎡
延床面積	4,374.51㎡
構造	鉄筋コンクリート（一部鉄骨）平屋建、一部4階
総事業費	23億480万円
蔵書収容能力	30万冊（開架7万冊、閉架23万冊）
一般図書	60,000冊
児童図書	19,000冊
青少年図書	5,000冊
雑誌、新聞	280種、20紙
視聴覚観料	5,000点
	（CD,LD,VTR,CT,絵画,おもちゃ）

る。」こんな過激なところで“ぜんざい”のサービスを受けたのである。

図書館づくり伊万里塾

図書館づくりを市民と一緒に進めるために、8回にわたって伊万里塾が開かれたということである。よく行われる図書館づくり懇談会や審議会といったものではない。市民も含めて毎回50人ぐらゐが集まった。

もちろん設計を担当した寺田さん（横浜の株式会社総合計画研究所）も毎回参加した。この寺田さんも相当過激な人である。「図書館の設計は格闘

技だ」というぐらいだ。犬塚さんの話だと、設計の人もいろいろ議論をしたが、はじめにボンヤリ聞いていた。ところが「10年後、20年後の図書館としてのサービスをどう考えているのか。他を見に行ったりして『伊万里の図書館はこうありたい』という考えを出してもらわないと設計できない」という手紙をもらった。正に剛球を繰り出したという感じだが、受ける方も受けとめる力があつたということだと思ふ。

第1回の塾の講師をした菅原さん（図書館計画施設研究所）もすばらしい人だつたと思ふ。これらの一種過激な人々が、地に足をつけて取り組んだのが伊万里市民図書館づくりだといえよう。

見学や研究のための出張が多い

最近の公共団体の姿勢で問題なのは、「現地や現物を見て学ぶ」ということに対して評価が低いということである。逆に闇出張費を計上して、それを分配してしまうというような不祥事も起こしている。

ところが、設計者からハツパをかけられたこともあるかもしれないが、伊万里の「としょかん通信」を見ていると、各地の図書館見学や研究集会に参加した記事が多い。その中に「図書館とは建物だけを意味しない。サービスのシステムをいう」とか「図書館は成長する機能である」などという、ギョッとする言葉があつたりする。図書館とは正にソフトウェアなんだ、ハードではなく人々のシステムなんだという考え方が出ている。

見学の極めつけが、市民と一緒にアメリカの図書館まで見に行ったことだろう。「グローバル伊万里海外研修推進事業」ということで、49歳までの市民を対象に、費用は無料で5人（と図書館員1人）を派遣している。図書館づくりのためにこれだけのことをやるというのは偉いと思ふ。

計画から建設まで市民に情報公開

図書館づくり伊万里塾の活動を通して、建設の

コンセプトづくりにまで市民が参加し、アメリカまで見学に出かけたということは既に述べた。

それ以上に面白いのは、起工式のことである。考えてみると野暮ったい気もするが、建設地の地ならしをして、そこに白線で原寸平面図を描いて、それで市民に設計内容の説明をした。建設前から1/200ぐらいの模型で説明していたとのことではあるが、起工式の時「敷地を歩いてぜんざい食べた」ことが「伊万里市民図書館の日」制度につながり、私のいただいた“ぜんざい”につながっている。

また建設途中にも「中間見学会」というのを行っている。まさに、図書館建設自体、ハードづくり自体がソフトな活動となっている。

「ぶっくん」と「お話キャラバン」、「リクエストサービス」の活動 - これこそサービス業の原点

「ぶっくん」というのは自動車でまわる図書館の出前サービスである。このように新しい図書館をつくるという意気込みの中で、受け身ではなく、図書館側から市民に近づいていくという姿勢はなかなかすごい。

「お話キャラバン」はボランティアも参加して行く本の読みきかせで、これにボランティアとして参加した人の感激した話は楽しい。結局、ボランティアというのは、それをする側の人の方が楽しいということである。

もうひとつ力を入れている「リクエストサービス」は、利用者が借りたいという本や資材がない場合でも対応するというシステムで、「図書に関するニードには何でも対応する」という図書館の意気込みを示すものである。これが盛んなところほど活発な図書館だとされている。このことについても旧図書館の頃から取り組んでいて、佐賀県内の図書館、国会図書館、福岡の図書館、大阪府立中之島図書館などの協力を得て活動している。めったなことに「そんな本はありません」と言っ



上: ぜんざいをいただいただけで、話を聞いたわけでもないが、おそらくこのにこやかな顔の面々が、「図書館づくりをすすめる会」や「図書館友の会」の会員であって、時には市役所へ図書館の予算をふやすよう頼みにいくプレッシャーグループだったり、「お話キャラバン」というボランティアだったりするのかな、と思いながらぜんざいを頬ばった。

下: 中庭が豊かだ。ここでぜんざいをいただく。

てはならないというのが、図書館のコンセプトになっている。

図書館って、市民のためにいくら稼いでいるのか国や地方公共団体の財政赤字の問題がやっと明るみに出したが、その途端に、節約が言われ出している。しかし図書館ではずっと以前から「図書館が日々市民のためにいくら『利益』をもたらしているか」ということが問題になっていたことを知った。これは伊万里市民図書館の先輩格の福岡県苅田町立図書館で行われていることである。

その方法は次の通りである。

$$a \times b - c = d \text{ (利益)}$$

a 年間貸出冊数

b 資料や本の単価 (全国平均)

c 図書館年間経費

これをさらにシビアに見るならば、cの年間経費に減価償却を入れるということになるだろうが、そこまで考えなくてもよからう。原則的に言うと



書架の間に“座り込み”の椅子がある。



ブックエンドは伊万里焼き

幼児の保育や高齢者の介護などといった問題以外の、市民にとって選択の余地のあるサービスについては運営経費ぐらいは稼がねばならないと思う。上記の計算はそれとは別の考え方ではあるが、面白い試みである。

伊万里の図書館の活動にてらして考えてみると、「ぶっくん」の活動は「市民の足と時間の代行サービス」を含んでいるし、「お話キャラバン」は市民(子供)に「遊びと教育」のサービスを行っている。もちろん「リクエスト」も特殊で困難なサービスの提供である。またレジャー、エンターテインメント、学習の場として図書館を活用していただいているというサービスも重要な要素である。苅田町立図書館の考え方は大変すばらしいが、もう一歩進んで、知的サービス業としての誇りに根ざした、費用・効果の検討もやっていただきたいように思う。この項は私の思いつきであるが、すでに行われているかもしれない。

今回の見学は目から鱗がおちる思いであった。
犬塚さんの要を得た説明や案内で、図書館は言うに及ばず、公共施設全般のあり方についてもいろいろ学ぶことができ、非常にありがたかった。

追記：苅田町立図書館について、伊万里図書館の孫引きでは申し訳ないと思って、電話取材を試みた。電話に出られた園田館長さんに「図書館がいくら稼いでいるかという話について聞きたいんですが」と言いかけたら、即座に「うちの年商は18億円です」と返事が返ってきた。あとで送っていただいた“図書館だより”にも「図書館の年商は18億円！苅田町立図書館が皆さんに還元した金額です」と出ていた。この意味は総貸出冊数604,727冊×出版物の平均単価2,977円（1996年）= 18億272千円ということである。聞いた話をもとにバランスシートを作ってみると以下の通りになる。

- a 売り上げ 604千冊¹ × 1800円² ……
1,087,200千円
- ¹貸出冊数
²町立図書館の購入図書平均単価
- b 図書館費³ …… 112,172千円
³うち図書・資料費は 約40,000千円
- c 人件費等 …… 47,198千円
- d 営業利益 (a - b - c = d) …… 927,830千円

この数字に減価償却費や修繕維持費などが含まれているかどうかは聞きもらした。最後に一言。どうも図書館業界には過激派が住み着いているようである。
(2004.5 いと)